

31 年 2 月 25 日教 育 長 様

研究コース	グループ研究Bコース	選定番号	
校 園 コード(代表者校 園 の市費コード)		661460	

代表者校 園 名: 大阪市立宝栄小学校校 園 長 名: 西畑寧三

校印

電話: 6971-6300 FAX: 6971-9617

申請者校 園 名: 大阪市立宝栄小学校職 名・名 前: 西畑寧三

電話: 6971-6300 FAX: 6971-9617

代表者校 園 事務職員 名: 齊藤修巳

平成 30 年度「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成 30 年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Bコース	研究年数	新規研究(1年目)
2	研究テーマ	<p>情報活用の実践力の育成を「主体的・対話的で深い学び」で追求する</p> <p>◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。(【例】学力向上、体力向上等) 情報活用能力、情報活用の実践力、ICT 機器活用、主体的な学び、対話的な学び、深い学び</p>			
3	研究目的	<p>○総合的な学習の時間、教科の発展学習の中で、児童の情報活用の実践力を育成する。</p> <p>○教科学習の教育目標達成のために教育放送を含む、ICT 機器の効果的な活用方法を探り、授業モデルを作成する。</p> <p>○プログラミング教育について教科学習への位置づけを模索する。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>5/16 役員会 今年度の研究の方向の確認</p> <p>5/24 視聴覚部全体会 部会編成の確認と各部の研究の方向性と授業研確認</p> <p>8/8.9 大阪放送教育研究協議会 夏期特別研修会 研修会 模擬授業提案</p> <p>8/10 近畿放送教育研究会 夏期特別研修会 神戸大会 実践報告</p> <p>8/23 視聴覚部主催 プログラミング実技研修会t(暴風警報発令のため 短時間で)</p> <p>8/24 ケニス株式会社主催 プログラミング研修会 模擬授業提案・実技研修会</p> <p>9 月 宝栄小学校 4年生 ロボットを活用した公開授業(区長参加)</p> <p>10/ 3 今里小学校 田原教諭 公開授業</p> <p>10/24 平野西小学校 貝本教諭 公開授業</p> <p>10/30 三先小学校 伊東教諭 公開授業</p> <p>11/14 加賀屋小学校 豊島教諭 公開授業</p> <p>11/28 加美小学校 岡下教諭 公開授業</p> <p>11/29 島屋小学校 廣山教諭 公開授業</p> <p>1/24 視聴覚部全体会 研究紀要の確認と総研発表資料の確認</p> <p>2/14 総研準備</p> <p>2/15 総研</p>			

5	成果・課題	申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。			
		アンケート結果 プログラミングや ICT 機器活用に関しては 約 90%近い児童が楽しい、よかったと回答 先生へのアンケートではやや自信が持てたと回答する割合が 85% 総研での参考になったかどうかの回答は公開授業・発表・指導高評および講演ともに否定的な回答は見られなかった。 実践報告は以下の通り 8/8.9 大阪放送教育研究協議会 夏期特別研修会 研修会 模擬授業提案 8/10 近畿放送教育研究会 夏期特別研修会 神戸大会 実践報告 8/23 視聴覚部主催 プログラミング実技研修会 t (暴風警報発令のため 短時間で) 8/24 ケニス株式会社主催 プログラミング研修会 模擬授業提案・実技研修会 2/14 総研準備 他にも 9月に宝栄小学校で実施したロボット活用の実践は「未来の学びコンソーシアム」に実践報告として全国に発信 情報活用能力育成に関しては (成果) 「情報活用ノート」を、教科・単元にあわせ授業者が作成することで、児童の実態を考慮し、より教科の目標に迫ることができるものとして活用することできた。 また、情報活用能力到達目標一覧表を細分化することで、単元を通して、どの力を児童につけさせたいか、つけさせることができるのかが把握しやすくなり、系統立てた指導につながった。 (課題) 「情報活用ノート」を使うだけではなく、チェックポイントの明確な規準を児童にしめさなければ、「できた」にばらつきがあり、チェックポイントの意味がなくなってしまう。 今後は、情報活用能力の「情報活用の実践力」を育成する実践例を増やし、その活動にあったカスタマイズされた「情報活用ノート」の蓄積をしていきたい。 番組・機器活用にかかわっては (成果) 番組内で提示される課題や、情報を収集したり、まとめたりする課題は児童が活発に話し合い、深い学びにつなげる手立てとして効果的であった。 児童の実態や学習課題に合わせて番組や動画クリップの精選を行った。その中で児童が課題について考え、話し合わせる場合には、「ゆさぶり型」の番組を、情報を収集し、課題について話し合う場合には、「知識型」の番組や動画クリップを活用することで、より児童を主体的に学ばせることができた。 ・ 活動内容や児童の実態に応じて、動画の内容を俯瞰するワークシートを配布することで、後で自らの視聴を振り返ることができ、対話的な活動への効果的な手立てとなった。 (課題) 動画クリップは、短い時間で学習に必要な内容が凝縮されている。どの場面で使うと学習効果が高くなっていくかを検証していく。 深い学びにつながる対話への手立てとして、話し合いの視点をより明確に提示する必要がある。 そのため、より動画コンテンツや教材を研究する。 プログラミング教育に関して ○ プログラミング教育に関して総研にて2つの学習モデルを提案できた。 ○ プログラミング教育と教科学習の目標についての検討を深めることができた。			
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日 程	平成 30 年 2 月 15 日	参加者数	約 480 名
		場 所	大阪市立宝栄小学校		

※上記の内容について、原則としてフォントは 10 ポイント、A4判2ページ(両面印刷1枚)で作成し、平成 31 年2月 25 日(月)までに、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)